



第**52**期 **Business Report**

2024年4月1日～2025年3月31日

みなさまと共創していく、
新しい未来

We want to create the future with you.

株式会社クレオ

証券コード：9698



代表取締役社長
柿崎 淳一

持続的成長への変革と創造を目指して

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

第52期(2024年4月1日より2025年3月31日まで)の活動を終え、Business Reportをお届けするにあたりまして、ごあいさつ申し上げます。

多くの企業で「人的資本の強化」が重要な経営課題として位置づけられ、企業の経営資源・人的資本を管理する分野における投資需要は一段と拡大することが見込まれています。そうした中で、当社グループは、今後のデジタル社会に対応したビジネスモデルを確立し、持続的成長に向けた事業基盤の再構築に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



2025年3月期の概況について お教えてください。



IT業界全体を取り巻く市場環境は、DXの推進、クラウドサービスの普及、AIの活用拡大などを背景として、旧来システムの刷新やクラウド移行への需要が旺盛で、IT投資は活発な状況が続いています。

こうした中で、成長事業と位置づけたソリューションサービス事業において、ビジネスモデルがライセンスモデルから利用料モデルへシフトしていく中で、クラウドサービスを拡充させたことで、ストック売上高の伸長が顕著となりました。同事業

は、人員数に依存しない高付加価値ビジネスの追求を特徴としており、利益面でも当社グループの業績を牽引しました。一方、受託開発事業は、戦略的受注プロジェクトにおいて上期に発生した高原価状態の影響で減益となりました。システム運用・サービス事業については、新規顧客の開拓やニアショア拠点の稼働率向上などで増収増益となりました。また、サポートサービス事業は、主要顧客の統合による内製化の影響で減収減益となりました。

以上の結果、売上高は145億21百万円(前期比1.2%増)、営業利益は11億30百万円(同4.2%増)となり、営業利益率も

前期の7.6%から7.8%に向上しました。経常利益は11億54百万円(同4.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は減損処理をしたことにより6億96百万円(同2.9%減)となりました。



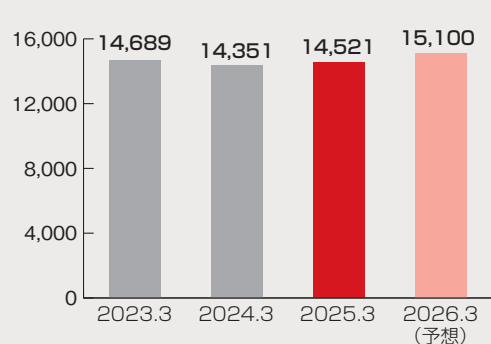
持続的成長に向けた経営戦略について お聞かせください。



当社グループは現在、2024年6月に公表した中長期の経営ビジョンである「VISION2030 持続的成長への変革と創造」の実現と、2025年3月期を初年度とする3ヶ年の中期経営計画に取り組んでいます。

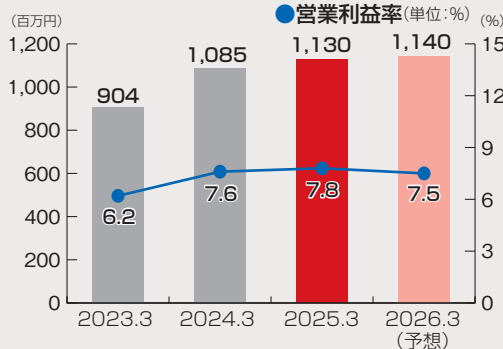
売上高

(単位：百万円)



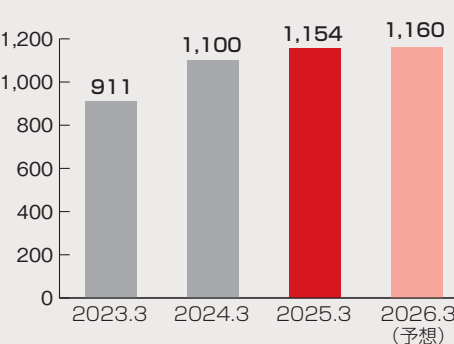
営業利益

(単位：百万円)



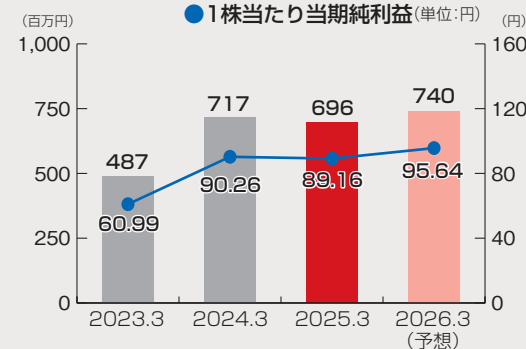
経常利益

(単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



「VISION2030」では、顧客とともに社会課題に取り組みながら、持続的な成長と企業価値向上に向けた変革と創造を繰り返し、すべてのステークホルダーにとって魅力的な企業として存在し続けることを目指しています。

また、中期経営計画においては、経営方針として「持続的成長に向けた事業基盤の再構築」を掲げ、基本方針として①ストックビジネスの拡充、②人財の強化、③グループ総合力の強化、④投資の拡大を推進してまいります。

セグメント別では、ソリューションサービス事業を引き続き成長事業と位置づけ、HRテック周辺領域を拡充しながら他社サービスとの差別化を進めていく中で、DXの推進や顧客価値(カスタマーエクスペリエンス)の向上に向けたデータ活用支援の拡大などに力を入れてまいります。受託開発事業では、主要顧客からの受注を維持しつつ、デジタル技術、特にAIを利活用できるエンジニアの育成を強化してまいります。システム運用・サービス事業では、高度化するサイバー攻撃に対応するため、主要システム監視業務を軸に受注を強化してまいります。サポートサービス事業では、サポート人財からエンジニア人財への転換などリスクリテラシー強化を実施し、事業領域の幅を拡大してまいります。

さらに、本計画に基づく成長戦略を着実に進めていくために、2025年4月に社長直轄の「グループ戦略推進室」を新設しまし

た。各セグメントに対して俯瞰的・包括的な組織としてグループ融合を強力に推進し、事業モデルの転換による顧客価値の最大化を追求してまいります。

これらの取り組みで、本計画最終年度である2027年3月期に売上高180億円、営業利益15億円、営業利益率8.3%、ROE12%超の達成を目指してまいります。

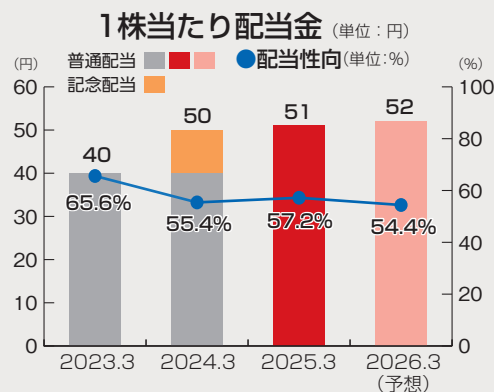
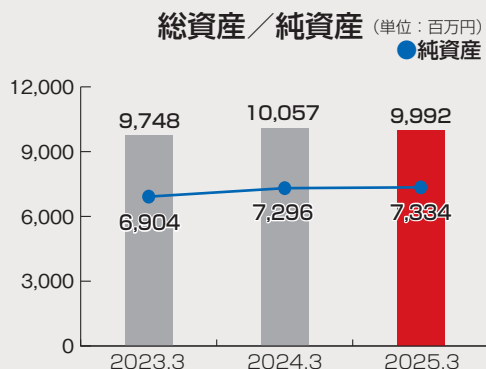
Q それでは、2026年3月期の見通しについて教えてください。

A 加速した働き方の変革に伴うデジタル技術の活用や、情報・人的資本を企業価値創出の源とした企業活動変革のための投資が今後も続くものと認識しています。とりわけ、企業の経営資源・人的資本を管理する分野では、引き続きITの活用による管理促進、クラウド技術への対応拡大など、経営基盤拡充に対する投資は旺盛に推移すると思われます。こうした中で当社グループは、中期経営計画に則って新たなビジネスモデルの構築、サービス提供に注力してまいります。

2026年3月期の見通しに関しましては、売上高は151億円、営業利益については製品強化の投資を加速させつつ過去最高益となる11億40百万円を見込んでいます。また、経常利益は11億60百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は7億40百万円を予想しています。

Q 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

A IT業界は現在、需要の高まりによってITエンジニアの不足が深刻化しています。こうした中で、当社グループでは、グループ内の人的資本強化に向け、クラウド、DX、AI技術者の拡充、組織活性化のための人材ローテーション制度構築、そして個人の成長と組織全体の競争力向上を目指した学び続ける環境作り(リスクリテラシー)の一体的な推進、次世代経営幹部育成のためのサクセッションプラン強化など「VISION2030」の実現に向けた取り組みを実行してまいります。株主の皆様には、引き続きご支援を賜われますよう、お願い申し上げます。

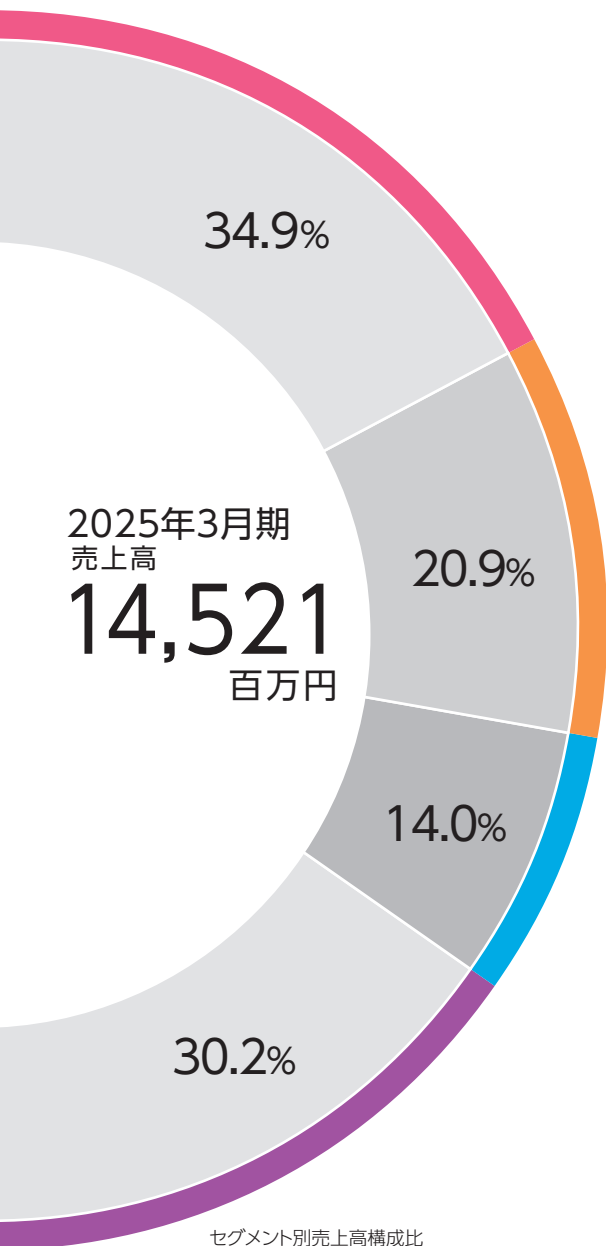


利益配分に関する基本方針と当期・次期の配当について

当社は株主の皆様への剰余金処分を経営の重要な政策の一つとして考えており、配当に関しては長期的な視点に立ち、連結経営成績に応じた安定的な利益の配分を基本方針としております。また、株主の皆様への長期的な利益還元をさらに充実させるため、連結配当性向40%を目標としております。

これらの方針に基づき、2025年3月期の配当金につきましては、当初計画の通り、1株当たり51円といたしました。配当性向については57.2%となりました。

また、2026年3月期の配当金につきましては、1株当たり52円、配当性向54.4%を予想しております。

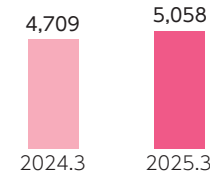


ソリューションサービス事業

売上高 **5,058** 百万円 営業利益 **903** 百万円

クラウド型利用料の伸長などにより、売上高は前期比で3億49百万円増加、営業利益は前期比で1億72百万円増加いたしました。

売上高 (百万円)

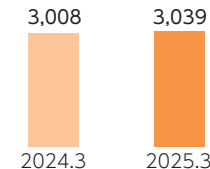


受託開発事業

売上高 **3,039** 百万円 営業利益 **556** 百万円

主要顧客向け案件の堅調な推移などにより、売上高は前期比で30百万円増加、戦略的受注プロジェクトにおいて発生した高原価状態の影響などにより、営業利益は前期比で46百万円減少いたしました。

売上高 (百万円)

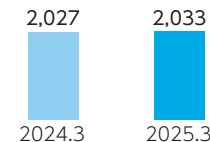


システム運用・サービス事業

売上高 **2,033** 百万円 営業利益 **310** 百万円

主要顧客からの受注維持などにより、売上高は前期比で5百万円増加、営業利益は前期比で40百万円増加いたしました。

売上高 (百万円)

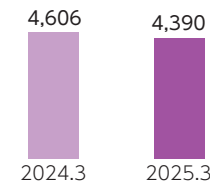


サポートサービス事業

売上高 **4,390** 百万円 営業利益 **320** 百万円

主要顧客の統合による内製化の影響などにより、売上高は前期比で2億15百万円減少、営業利益は前期比で60百万円減少いたしました。

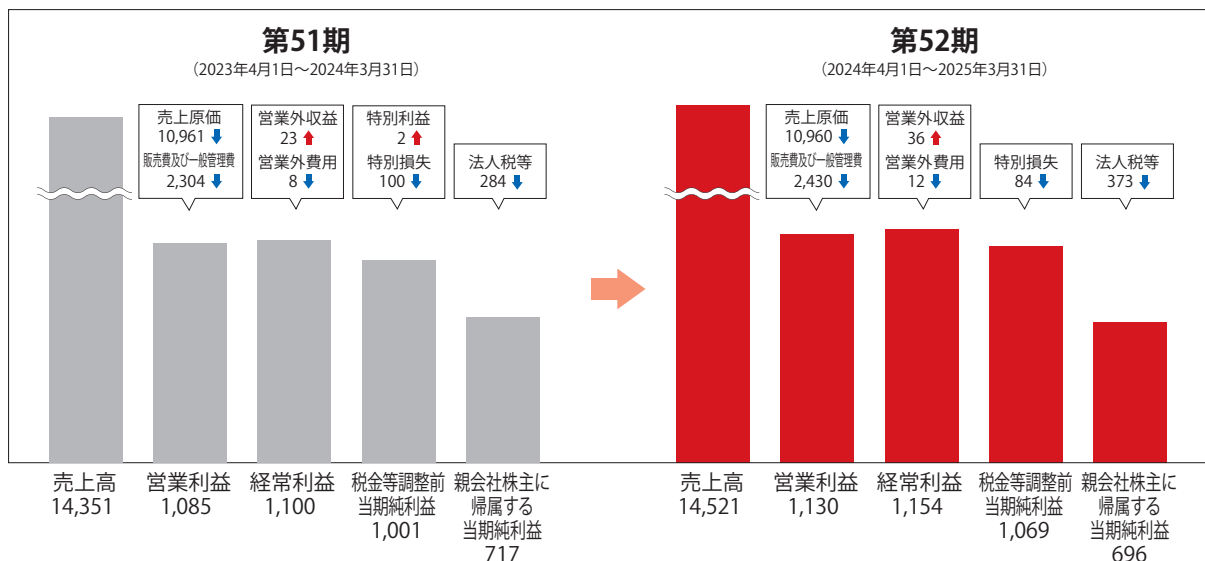
売上高 (百万円)



財務データ

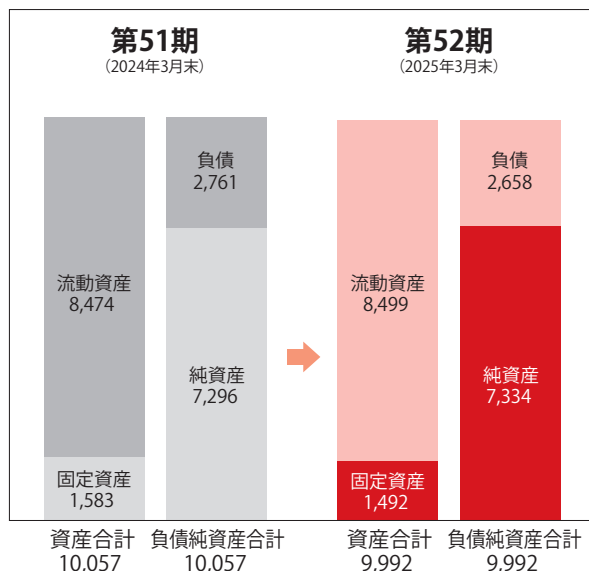
連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



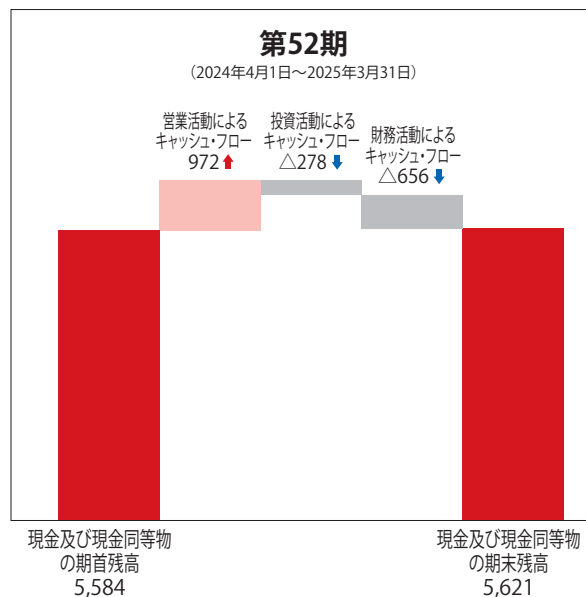
連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



	第51期	第52期
経営成績 (単位:百万円)	売上高	14,351
	売上総利益	3,390
	営業利益	1,085
	経常利益	1,100
	税金等調整前当期純利益	1,001
	親会社株主に帰属する当期純利益	717
財政状態 (単位:百万円)	資産合計	10,057
	流動資産	8,474
	固定資産	1,583
	負債合計	2,761
	流動負債	2,542
	固定負債	219
	純資産合計	7,296
キャッシュ・フロー (単位:百万円)	営業活動によるキャッシュ・フロー	2,174
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 172
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 329
	現金及び現金同等物の期末残高	5,584
		5,621
1株当たり情報 (単位:円)	1株当たり当期純利益	90.26
	1株当たり純資産	917.75
	1株当たり配当金	50.00
財務指標	自己資本当期純利益率 (ROE)	10.1%
	総資産経常利益率 (ROA)	11.1%
	自己資本比率	72.5%

TOPICS

1

2027年4月適用の新リース会計基準に対応するシステムを開発中

クレオは、2027年4月に適用が義務付けられる新リース会計基準への対応を支援するクラウドサービスの開発を進めています。本サービスは、既存のZeeM基盤を活用し、リース取引の複雑な会計処理や管理業務を効率化することで、お客様のスムーズな新基準移行と生産性向上を支援します。2026年3月の提供開始を予定しています。

【ジーム】
ZeeM

TOPICS

2

クレオグループ全社で「生成AI活用コンテスト」を開催

クレオグループは、生成AIの利用促進、業務効率化による利益率向上、創造する文化の醸成、開発力の向上を目的に、グループ全体で「生成AI活用コンテスト」を実施しました。本コンテストには多くの応募があり、社員の生成AIに対する高い関心と活用に向けた活発な取り組みが示されました。当社は今後も、コンテストで得られた知見を活かし、AI活用による生産性向上とイノベーション創出を推進することで、競争力強化に繋げてまいります。



TOPICS

3

経済産業省「健康経営優良法人 2025」に認定

2025年3月、6年連続で経済産業省と日本健康会議が進める健康経営優良法人認定制度において「健康経営優良法人2025(大規模法人部門)」に認定されました。健康経営優良法人認定制度とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組む法人のことで特に優良な健康経営を実践している法人を健康経営のリーディングカンパニーとして評価・認定する制度です。今後も継続的な従業員の健康増進に取り組み、社員とその家族、お客様の幸せを最大化し、豊かな未来社会の実現に貢献してまいります。



会社概要／株式の状況

◆会社概要

商 号	株式会社クレオ
所 在 地	東京都品川区東品川四丁目10番27号
役 員	(2025年6月24日現在)
代表取締役社長	柿崎 淳一
代表取締役副社長	二宮 桐人
取締役	佐々木 尚也
社外取締役	春木 謙一
社外取締役	室井 清孝
社外取締役	木脇 秀己
常勤監査役	雨田 高志
社外監査役	高橋 貢子(公認会計士)
社外監査役	水田 進(弁護士)
設 立	1974年3月22日
資 本 金	3,149,650千円
連結売上高	14,521百万円 ※2025年3月期実績
従 業 員 数	連結 1,178人 単体 503人

◆株式の状況 (2025年3月31日現在)

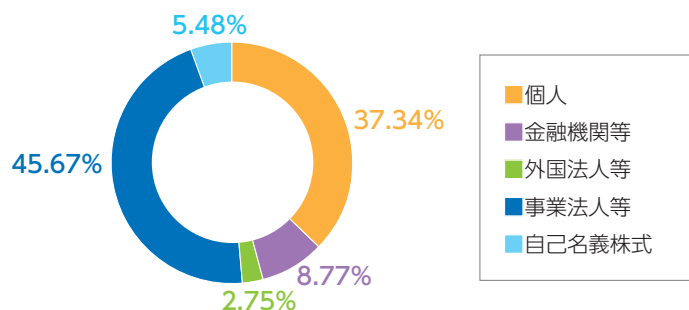
発行済株式総数 8,585,688株
株主数 5,766名

大株主 (2025年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
アマノ株式会社	2,645	32.6
LINE ヤフー株式会社	1,100	13.6
株式会社日本カストディ銀行(信託E口)	378	4.7
クレオ従業員持株会	255	3.1
和田 正次	151	1.9
椎名 敬一	137	1.7
明治安田生命保険相互会社	100	1.2
松井証券株式会社	77	1.0
BBH(LUX) FOR MUFG GLOBAL FUND SICAV-MUFG JAPAN EQUITY SMALL CAP FUND	68	0.9
呉 春毅	59	0.7

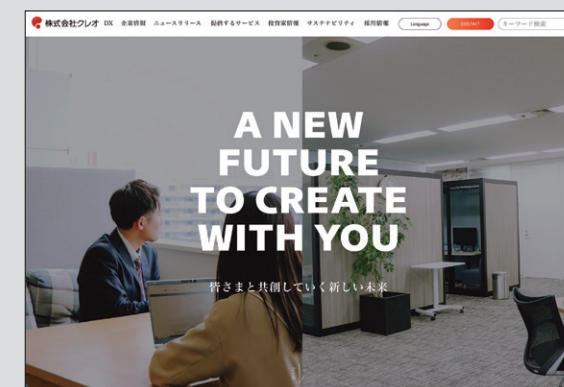
(注) 1. 当社は株式給付信託を導入しており、株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が378千株を所有しておりますが、自己株式には含めておりません。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算(小数点第二位を四捨五入)しております。
3. 当社は自己株式を470千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

所有者別株主分布状況



◆WEBサイトのご案内

当社ホームページでは、詳細なIR情報や財務情報など、株主・投資家様向けの情報の掲載はもちろんのこと、メールによる「IRメール配信サービス」も行っております。是非一度ご覧ください。



<https://www.creo.co.jp/ir/>



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場
公告の方法	電子公告の方法により行う。 公告掲載URL https://www.creo.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない 事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

理念・行動規範

企業理念

私たちは、「人間の想像力」と「世界中のテクノロジー」を結合することで、「感動！」を生む変革を起こし、豊かな未来社会の実現を目指します。

行動指針

～幸せな企業人であり続けるための7つの行動～

1. 感謝の気持ちを忘れない
2. 信頼すること、されることを重んじる
3. いつも誠実に行動する
4. 心も技術も磨き続ける
5. より健康であり続ける
6. 恐れずに何ごとにも挑戦する
7. 仕事にも社会にも人生にも成果を出す



このロゴには、3つの「想い」が込められています。

1つは「感動」を生むこと

クレオは「感動」を提供する企業です。常に周囲の期待を超え、驚きを提供していく姿をロゴに託しました。ロゴはエクスクラメーションマーク(感嘆符)をかたどりました。球形はクレオ自身を表します。共に語り、共に考え、共に成長するという共創の精神を象徴しています。

1つは「創造」し続けること

クレオの歴史は創造の歴史です。ロゴは、知識や技術、関係の新たな結びつき(新・結合=イノベーション)を発見、創造し続ける決意を象徴しています。クレオ自身を示すこの球体から、次代を担う人財、製品、サービスが次々と生まれ、大きく育っていく姿を表しています。100年企業を目指し、時代時代にあわせ、変化し続ける姿です。

1つは「永遠(とわ)」に寄り添うこと

クレオはいつもステークホルダーの皆様に寄り添う企業でありたいという願いを込めました。ロゴは、クレオ自身である球体が、お客様や社会、株主の皆様に寄り添っているというイメージを表現しています。

社会に貢献できる価値を提供し続ける企業であるという私たちの願いを象徴しました。

